

公的医療機関等2025プラン 及び意向調査の結果等について

安足健康福祉センター

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名 保健医療圏 区分 策定時期 病床数	那須赤十字病院 東北 公的 地域医療支援 H29(2017)10		那須南病院 東北 公立 新公立病院改革プラン H29(2017)03		上郡総合病院 奥西 公的 H29(2017)10		済生会宇都宮病院 宇都宮 公的 地域医療支援 H29(2017)10	
	許可	稼働	許可	稼働	許可	稼働	許可	稼働
計	460	450	150	352	352	644	644	644
一般	454	444	100	302	302	644	644	644
療養			50					
結核								
精神								
感染症	6	6		50	50			
高度急性期	57	47	100	139	139			484
養病床のうち急性期	397	397	100	163	163			176
回復期								
慢性期			50					
診療科数	29		10	26	26	28	28	28
特定の病床数	30					9	9	9
(H28病床機能報告より)						16	16	16
ハイケアユニット(HCU)	11			12	12			
脳卒中ケアユニット(SCU)	6							
新生児特定集中治療室(NICU)	10							
新生児治療回復室(GCU)								
小児特定集中治療室(PICU)								
総合回復期特定集中治療室(IMFICU)								
地域包括ケア病棟								
回復期リハビリテーション病棟								
緩和ケア病棟	20							
医師	81		13 (H27年度)	54	54	20	20	20
看護職	470			297	297	167	167	167
その他医療専門職	138			111	111	754	754	754
外来患者数	956 [人/日] (H28年度)	272 [人/日] (H27年度)				延べ363,104 [人/年] (H28年度)	延べ363,104 [人/年] (H28年度)	延べ363,104 [人/年] (H28年度)
入院患者数	394 [人/日] (H28年度)	119 [人/日] (H27年度)				延べ218,189 [人/年] (H28年度)	延べ218,189 [人/年] (H28年度)	延べ218,189 [人/年] (H28年度)
一般・療養病床稼働率	87.6% (H28年度)					83.8% (H28年度)	85.8% (H28年度)	85.8% (H28年度)
一般病床平均在院日数[日]	9.370 [人/日] (H28年度)	5.532 [人/年] (H27年度)				12.9 (H28年度)	12.9 (H28年度)	12.9 (H28年度)
救急患者数	3,863 (件/年) (H28年度)					562 (件/月) (H28年度)	562 (件/月) (H28年度)	562 (件/月) (H28年度)
手術件数	1,457 (件/年) (H28年度)					337 (件/月) (H28年度)	337 (件/月) (H28年度)	337 (件/月) (H28年度)
うち全麻								
特徴、政策医療(抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期および急性期を中心に医療を提供 ・二次救急センターとして、救急患者を受け入れ、救命救急センターとして、機能を発揮 ・できるだけ早く初期治療を開始し救命率を上げるため、ヘリポート利用は約4件/月、トクターカーは、約12件/月の出勤 ・NICU・GCU(高度急性期)を有し、ハイリスク出産を多く取り扱っている。33週未満の出産を取扱う医療機関が当院のみとなり、早い段階から緩和ケアチームが介入し、赤十字病院・災害拠点病院として、救護班・DMATを有し ・へき地医療拠点病院として、巡回診療を 		<ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期と急性期を中心に、二次救急医療機関として奥西地域の南部地域へ医療を提供 ・脳卒中地域医療連携拠点病院として ・地域がん診療連携拠点病院として ・急性期医療の提供から一貫したリハビリテーションを提供、急性期から一貫した中央化されており、地域で24時間体制の多数の医師を確保しているのは非現実的 ・心大血管リハビリテーションの施設基準の取得に向けて体制整備を図っていく、急性期心カテは、すでに中央化されており、大病院へホットラインで ・血糖コントロールが困難な患者に対し、教育入院等の集中的な治療を実施 ・地域の精神科システムに参画し、身体疾患を合併する精神疾患患者に対して、必要な医療を提供 ・地域における認知症医療の中核的機関としての役割 ・入院や手術を必要とする重症患者に対する救急医療を提供 ・被災現場への医療救護チーム(DMAT)の派遣 		<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県における地域中核病院としての役割を担っている ・栃木県の救命救急センターを受託運営して、重症救急患者の治療の救急専従医を中心とした24時間体制で行っている ・栃木県内では唯一のDPC II 群の指定を受け、子育て世代の家庭を支援するため、地域型保育施設および病児保育施設を開設 ・とちぎ性暴力被害者サポートセンター(とちぎメール)・認知症疾患医療センターの受託運営 ・医療だけでなく福祉分野においても地域貢献に取り組んでいる ・地域がん診療連携拠点病院・急性期のみならず終末期にまで対応 ・第3次救命救急センターとして、神経内科、脳神経外科を有し、血栓溶解療法(t-PA治療)にも対応 ・心疾患集中治療室(GCU)も5床整備 ・糖尿病内分泌科を中心に、外来、入院医療 			

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

特徴、政策医療(抜粋)	那須赤十字病院	那須南病院	上郡賀総合病院	済生会宇都宮病院
<p>紹介率 逆紹介率 その他地域との連携に関する項目</p>	<p>74.6% (H28年度) 61.6% (H28年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「他院より紹介あり」での入院患者は、…70%を越え ・脳卒中や大腿骨骨折、廃用症候群など連携バスを活用 ・院内に「かかりつけ医紹介相談窓口」を設置し、かかりつけ医を持たない患者や急性期以降の治療が必要な患者等を対象に、逆紹介を推進 ・地域医療機関からのMRIやCTの画像診断依頼が200件/月近くあり 		<ul style="list-style-type: none"> ・へき地医療拠点病院として…巡回診療を継続実施 ・地域内で安心して分娩できる周産期医療の体制を維持継続 ・常勤小児科医師を複数確保し、小児の入院医療の提供を目指す…それだけの入院医療ニーズがあるかが問題 ・退院支援が可能な体制(患者支援センター・PFM)を充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科病床は有していないが、外来診療を実施…認知症疾患医療センターの指定 ・救急専従医を中心として24時間体制で取り組み、…救命救急センター(救急外来(診察室4室、重症処置室6室、経過観察室4室)ICU11床、CCU5床、ICU9床)ほか後方ベッド ・基幹災害拠点病院…日本DMATを3チーム編成 ・地域周産期医療機関として、周産期・不妊部門32床、NICU小児循環器部門18床…救急患者搬送も多く、産婦人科も常時救急に備えた診療体制 ・先天性心疾患に対し検査・手術が可能
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の急変対応として、救命救急センターの受け入れ体制の強化と、地域で不足している、急性期治療後の患者の受け皿となる医療機関の整備 ・更なる逆紹介の推進 		<ul style="list-style-type: none"> ・専門領域や施設機能等を紹介した「診療のご案内」を作成 ・「とちまるネット」の利用拡充 ・「PEG地域連携」「地域連携栄養指導」の更なる充実 ・電話紹介を断らない「統括当番医」システムの安定した運用 ・鹿沼市内の病院・老健のソーシャルワーカーによる定期的な会合 ・ケアマネ…ジャーと年1回合同研修会 ・周産期と小児の入院医療については、他の医療機関との連携を前提に対応 ・人員の確保及び最新の医療機器の整備の検討 ・常勤医がない診療領域として、総合診療、血液内科、神経内科、化学療法、放射線治療、緩和ケアなど ・看護師も潤沢ではなく常に専業 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部環境…人口変化、社会保障などに大きな課題 ・内部環境…強みは、地域で高いマナーケアシエア…、重症度の高い患者割合が高い、…多くの救急患者…、手術部の稼働能力が高い、医師数、スタッフの練度が高い、弱みとしては①再診患者割合が多く外来負担が高い、②退院後の患者フォローに関する地域連携に改善の余地がある。③移転整備より20年が経過し、ハード面の制約がある

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名	今後の方針	今後地域において担うべき役割	那須赤十字病院	那須南病院	上郡寛総合病院	済生会宇都宮病院
	<p>今後地域において担うべき役割</p>	<p>・重度の急性期疾患(脳梗塞や急性心筋梗塞、重症外傷など)に対応する高度急性期機能の提供体制は維持 ・超急性期を脱した患者や手術が必要な患者の対応(7対1病棟)、がん患者などの終末期ケアが可能な患者の対応(緩和ケア病棟)の体制は継続して担うべき ・救急医療、へき地医療、周産期医療、看護活動など不採算といわれる領域についても継続して体制を確保 ・区域にとらわれない病院間連携により、地域住民が安心できる地域医療体制を構築</p>	<p>【地域医療構想を踏まえた役割の明確化】の記述 ・①365日24時間対応の救急医療体制の維持 ・②へき地医療を含めた地域医療提供体制の維持 ・③人工透析医療体制の充実 ・④在宅医療推進のための各種事業への参画・支援</p>	<p>【地域医療構想を踏まえた役割の明確化】の記述 ・今後は回復期病棟に加え、急性期・回復期・慢性期の病床機能をもつ地域の中核病院として</p>	<p>・高度急性期病棟として、高度急性期や急性期の医療提供を維持継続…急性期医療を当院へ集約した場合、現在の3病院による2次救急輸送も集約する必要 ・当地域では、地域包括ケアシステムを運用するための人的資源が極めて不足しており、人的プールとして当院の人材を地域で活用することは検討に値する</p>	<p>・高急性期病棟であり、今後も、その機能を維持 ・増加すると予想される医療ニーズに応える…悪性新生物、神経系、循環器系、外傷等に対応できる病院機能 ・減少すると予想される医療ニーズに対する…少子高齢化による小児、産科の減少…現状の医療機能は当面は維持…産後ケア事業を実施 ・「とちまるネット」などのインフラを最大限活用</p>
	今後持つべき病床機能	<p>・現在の病床機能の維持が肝要 ・周産期領域については、…当院の機能強化を後討する必要がある</p>	<p>【経営形態の見直し】の記述 ・経営形態の見直しは、現時点では検討していない。ただし、地域医療需要の変化や地域の医療機関において機能変更などあった場合には、柔軟に対応する用意 ・外来機能の分化が進んでいないため、継続して患者啓蒙を行っていきたい ・とちまるネットの更なる活用</p>	<p>・人口減少に伴う今後の医療需要の推移を加味して、最適な病床規模について検討</p>	<p>・現状の病床機能を維持 ・集中治療室の機能拡張を予定</p>	<p>・手術室機能を拡張…現在10室…3室を増室…手術支援ロボットの導入、ハイブリッド手術室の導入を検討 ・化学療法センターを平成29年度にリニューアル ・平成29年12月から、口腔ケアの運用</p>
	その他見直すべき点	<p>・救命救急センター指定の30床および新生児特定集中治療室(6床(稼働3床))・新生児治療回復室(10床(稼働6床))については「高度急性期」として ・一般病棟入院基本料(7対1:377床)病棟は「急性期」として ・緩和ケア病棟20床については、「急性期」機能とする</p>	<p>【経営の効率化】の記述 ・経営の効率化を図りながら現行体制の継続を基本とし、事業規模は、地域の医療需要を考慮した病床機能、病床数とします。</p>			
	4機能ごとの病床のあり方					

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

機能ごとの病床数 合計	那須赤十字病院		那須南病院		上都賀総合病院		済生会宇都宮病院		
	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	
高度急性期	444	444			302	302	660	660	
急性期	57	47			139	139	484	484	
回復期	397	397			163	163	176	176	
慢性期									
診療科の見直し	見直しの予定なし								
具体的な数値 目標	病床稼働率	90% (2025年度)							
	手術室稼働率	80% (2025年度)							
	紹介率	80% (2025年度)							
その他実績	救急患者数	5,750人(H32年度)							
	平均在院日数	12.5日以内、手術件数6,500件、 救急入院患者数4,800名							
人件費率 経営に関する項目、その他	医療収益に占める人件費成	55% (2025年度)							
	経営収入	経常収支比率 101.4% (H32年度) 医療収支比率 92.4% (H32年度)							
地域医療介護総合確保基金の 活用について	地域医療介護総合確保基金の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの開設 ・宇都宮市小児輪番体制の確保 ・地域の小児救急医療体制の補強[小児救急電話相談事業] ・ハイリスク分岐の受入体制の確保 ・新人看護職員研修事業補助金 							
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・機能強化型訪問看護ステーション ・赤十字統一の看護師教育制度 ・在宅医療に貢献 ・「顔の見える関係」の一環として各種会合を開催、積極的に参加 ・学生、実習生の積極的な受け入れを実施 							

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名	NHO栃木医療センター 宇都宮 公的 地域医療支援 H29(2017).09	NHO宇都宮病院 宇都宮 公的 地域医療支援 H29(2017).10	JCHOうつのみや病院 宇都宮 公的 H29(2017).10	栃木県立がんセンター 宇都宮 地方独立行政法人 中期計画 H28(2016).03
保健医療圏				
区分				
策定時期				
病床数	計 許可 稼働	計 許可 稼働	計 許可 稼働	計 許可 稼働
一般	350	350	370	193
療養	344	344	340	147
結核				46
精神				
感染症	6			
高度急性期	12			
養病床のうち急性期	332	140	130	147
機能別の病床回復期		60	60	46
慢性期		150	150	
診療科数	27	17	18	
特定の病床数(H28病床機能報告より)				
救命救急集中治療室(ICU)				
ハイケアユニット(HCU)	12			
脳卒中ケアユニット(SCU)				
新生児特定集中治療室(NICU)				
新生児治療回復室(GCU)				
小児特定集中治療室(PICU)				
総合周産期特定集中治療室(MFICU)				
地域包括ケア病棟	52	60		
回復期リハビリテーション病棟				
緩和ケア病棟				
医師	61.9 (現員数)	27	46	24
看護士	281.2 (現員数)	254	33	
その他医療専門職	122.9 (現員数)	98	173	
外来患者数			79	
入院患者数	新入院7,535 [人/年] (H28年度)	82.7% (H28年度)		
一般・療養病床稼働率	81.4% (H28年度)	31.9% (H28年度)		
一般病床平均在院日数[日]	12.8 (H28年度)			
救急患者数	救急車受入3,160 [件/年] (H28年度)			
手術件数	3,837 [件/年] (H28年度)			
うち全麻				
特徴、政策医療(抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮医療圏の中心的な急性期病院 ・総合診療が可能 ・二次救急輪番病院、地域医療支援病院、第2種感染症指定医療機関としての役割 ・栃木県D-MAT指定病院となっており、災害拠点病院として ・地域包括ケア病棟を7対1看護基準の一般病棟へ施設基準を変更し、より重症度の高い救急患者の受入が可能となる体制を整備 ・栃木県がん治療中核病院として放射線治療専門医を2名採用 	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期・慢性期・回復期・という性格の異なる3つの領域を診療しているケアミックス型の病院 ・栃木県がん治療中核病院・地域医療支援病院として承認 ・救急医療においては、宇都宮のみならず県北、県東・からも積極的に受入・政策医療である結核、重症心身障害、神経難病についても県外からの受入れ ・骨・運動器疾患に関する専門医療、成育医療(小児慢性疾患)に関する専門医療、重度心身障害に関する専門医療、肝疾患に関する専門医療、結核の拠点施設・エイズ治療専門協力病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市南部地区の中核病院として、急性期医療から回復期リハビリ、介護老人保健施設が集約されており、更に地域包括支援センターを設けシームレスに医療・介護のサービスを提供 ・回復期リハビリ病棟は、当院の重要な機能 ・宇都宮市南部地域の二次救急輪番病院 ・災害拠点病院 ・二次救急輪番病院(小児科を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 【医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述 ・がん専門病院として、高度で専門的な医療を提供 ・さまざまな病態に応じて必要な医療を受けられるよう、医学的治療の充実 ・低侵襲な鏡視下手術・食道、胃、大腸の内視鏡治療の実施 ・IMRT(強度変調放射線治療)やSBRT(体幹部定位放射線治療)等、高度な放射線治療 ・高度ながん化学療法を引き続き提供・他の医療機関では実施困難な最新の化学療法を提供 ・国内外の多施設共同研究に積極的に取り組む ・緩和ケアセンターの体制を充実 ・リハビリテーションスペースを拡充・がんと診断された時から患者の病態に応じたリハビリテーションを提供
常勤職員数			46	
医療機関の現状と課題				

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

特徴、政策医療(抜粋)	NHO栃木医療センター	NHO宇都宮病院	JCHOうつのみや病院	栃木県立がんセンター
<p>課題</p>	<p>退院支援の強化・・・(後方支援病院数の拡大) ・より多くの救急患者を受け入れるためには現在の急患室では狭隘・・・老朽化 ・救急専任の医師確保 ・小児科医及び産婦人科医を確保し、小児救急及び周産期機能を強化 ・精神科医の確保</p>	<p>専門性の高い地域医療(急性期医療)、栃木県がん治療中核病院として、消化器がん、呼吸器がんを中心としたがん治療、結核、重症心身障害、成育(小児慢性疾患)、神経難病の公益性の高い政策医療(慢性期医療)等の提供を維持 ・地域医療支援病院として、地域医療連携をさらに強化 ・地域包括ケア病院については、在宅等において療養を行っている患者の急性増悪時の受け入れ、治療後在宅等に戻す地域包括ケアシステムを推進すべく体制をさらに強化 ・2025年には回復期病床のみが大きく不足する推計から地域包括ケア病床の増床及び転換は、これからの医療需要を見越して必須</p>	<p>当面的には野在の医療及び介護の機能や規模が必要・・・既存機能を更に充実し、宇都宮市南部地区の救急受入病院としての機能強化と地域包括ケアシステムの中核的存在となる ・回復期の病床の増床が急務であることと併せて急性期病床の再編も課題 ・地域医療連携機能の更なる強化と訪問看護ステーションの設置を検討 ・宇都宮南部地区には地域医療支援病院がないことから、隣接する下野市、上三川町、壬生町を含めた地域の中核病院として地域医療支援病院の承認を受けることも課題</p>	<p>【医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述 ・地域全体の緩和ケアの質の向上を図るため、地域連携カンファレンスの実施、在宅療養支援機能を担う診療所や訪問看護ステーションとの連携強化、訪問診療の検討 ・都道府県がん診療連携拠点病院として ・緩和ケアア研修やがん専門看護師の実習受け入れ等・・・がん医療に携わる医療従事者の育成に 対して積極的に支援 ・放射線治療品質保証室による技術的な支援</p>
<p>紹介率 逆紹介率 その他地域との連携に関する項目</p>	<p>82.7% (H28年度) 59.6% (H28年度) 急性期病院であるが、在宅患者の急性増悪や連携医からの紹介患者はこれまで通りの受入体制を取っており、地域包括ケアシステムを担っていく急性期病院としての役割を果たしていきたい</p>	<p>50.8% 48.8%</p>	<p>92.8% (H26年度) 31.7% (H26年度)</p>	<p>【医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述 ・地域全体の緩和ケアの質の向上を図るため、地域連携カンファレンスの実施、在宅療養支援機能を担う診療所や訪問看護ステーションとの連携強化、訪問診療の検討 ・都道府県がん診療連携拠点病院として ・緩和ケアア研修やがん専門看護師の実習受け入れ等・・・がん医療に携わる医療従事者の育成に 対して積極的に支援 ・放射線治療品質保証室による技術的な支援</p>

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

<p>病院名 今後の方針</p>	<p>今後地域において担うべき役割</p> <p>NHO 栃木医療センター ・救急部門の充実を図り、急性期患者の更なる受入体制を強化 ・病診連携・病病連携を更に推進 ・栃木県がん治療中核病院として県立がんセンターとともにがん患者の治療に対応 ・低侵襲治療である腹腔鏡手術等により、早期離床、早期改善、早期社会復帰が出来るような高度な医療の提供 ・地域包括ケアシステムの構築における中心的な役割 ・急性小児医療の充実・周産期医療体制の整備</p>	<p>NHO 宇都宮病院 ・専門性の高い地域医療(急性期医療)の急性期機能の維持及び充実 ・消化器がん、呼吸器がんを中心としたがん治療の急性期機能を維持 ・地域包括ケア医療(回復期医療)の提供及び地域包括ケアシステムの推進をすべく体制の強化並びに充実 ・重症心身障害児者に対する医療について支援、ホストNICUへの対応をさらに充実させ、慢性期機能を維持 ・小児慢性疾患(成育)については、隣接する栃木県立岡本特別支援学校との連携を維持 ・結核医療の機能を維持 ・神経難病ネットワークの基幹病院としての協力体制を維持 ・エイズ医療・専門協力病院(HIV感染合併結核)としての機能を維持 ・病院群輪番制(宇都宮市)の参加継続による救急医療の充実 ・障害者歯科医療・今後力を入れる必要</p>	<p>JCHO うつのみや病院 ・宇都宮市南部地区の二次救急輪番病院としての機能を強化 ・救急受入体制の強化(内科・外科・小児科) ・宇都宮南部地区の地域包括ケアシステムの中核としての機能を強化 ・介護老人保健施設の在宅復帰機能 ・地域医療連携室 ・地域包括支援センター ・在宅医療支援のための拠点作り ・診療部門のセンター化 ・消化器センター ・透析センター ・人工股関節センター ・災害拠点病院としての機能を強化</p>	<p>NHO 宇都宮がんセンター 【医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取るべき措置】の記述 ・地域の医療機関との的確な役割分担を意識し、あらゆる進行度のがん患者に対応 ・他の医療機関では診療が困難な高齢者に対するがん診療 ・地域医療連携センターを積極的に実施 ・地域連携センターを設置し、日常的に積極的な対外活動を実践 ・がん患者のクリティカルパス ・地域医療連携ネットワークシステムを積極的に活用 ・あらゆる診療段階における医科歯科連携を推進 ・がん患者に特有な薬剤情報を調剤薬局と共有するなど 医運連携を推進 ・近隣の医療機関からの受診検査 ・積極的に受け入れる ・退院調整を充実 ・在宅療養中の患者の緊急時の受入れ等、状態変化に合わせて迅速に対応</p>
<p>今後持つべき病床機能</p>	<p>脳卒中・急性心筋梗塞に対応するため「血管内治療・検査センター」を整備</p>	<p>急性期については ・病棟数と病床数の再編が必要 回復期については ・回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟の二種の病棟の運用が地域のニーズに合致 ・病棟再編に向けた検討を開始 ・急性期120床(うち高度急性期5床(3病棟))回復期86床(2病棟)合計206床(5病棟)を基本コンセプトとし、将来的な新病院建設に向けたプラン策定を進める</p>	<p>急性期については ・病棟数と病床数の再編が必要 回復期については ・回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟の二種の病棟の運用が地域のニーズに合致 ・病棟再編に向けた検討を開始 ・急性期120床(うち高度急性期5床(3病棟))回復期86床(2病棟)合計206床(5病棟)を基本コンセプトとし、将来的な新病院建設に向けたプラン策定を進める</p>	
<p>その他見直すべき点</p>	<p>結核について、今後の需要を勘案しながら適正な病床数を検討</p>	<p>院内情報ネットワークを整備、地域の医療機関との情報交換機能の充実も急務 ・病院施設や医療機器の老朽化が顕著 ・病院の移転も視野に入れた建替え計画の策定</p>	<p>院内情報ネットワークを整備、地域の医療機関との情報交換機能の充実も急務 ・病院施設や医療機器の老朽化が顕著 ・病院の移転も視野に入れた建替え計画の策定</p>	
<p>具体的な計画</p>	<p>4機能ごとの病床のあり方</p>			

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

機能ごとの病床数	NHO栃木医療センター		NHO宇都宮病院		JCHOうつのみや病院		栃木県立がんセンター
	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告 (稼働)	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	
合計	344	344	340	350	245	206	
高度急性期	12	12				5	
急性期	332	332	130	130	199	115	
回復期			60	80	46	86	
慢性期			150	140			
診療科の見直し	・将来(2025年度)新設:循環器科、脳神経外科 の診療機能を充実						
具体的な数値目標	病床稼働率	85% (2025年度)	86.6% (2025年度)	80.0%超 (2025年度)			
	手術室稼働率	90% (2025年度)	60% (2025年度)	65%以上			
	紹介率	70% (2025年度)	90% (2025年度)	40%以上			
	逆紹介率						
	手術件数5,000件		手術件数1,000件				
その他実績							高難度手術 延べ60[件/年] (H32年度) 高精度放射線治療 IMRT延べ780、SBRT延べ 20[件/年] (H32年度) 外来化学療法 延べ7,900[件/年] (H32年度)
人件費率							
経営に関する項目、その他					収支率 100% → 102%		経常収支比率 100%以上 (H32年度) 医業収支比率 85%以上 (H32年度)
地域医療介護総合確保基金の活用について							
その他							・当院は脳血管疾患に救急応需から回復期リ ハビリ、そして在宅復帰までの一貫した治療の 地域における中核的存在となることへの期待が大 きい ・業務運営に関する重要事項を達成するために とるべき措置】の記述 ・病院施設の老朽化の状況や求められる機能 を踏まえ、院内にプロジェクトチームを設置

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名	とちぎリハビリテーションセンター	芳賀赤十字病院	自治医科大学附属病院	獨協医科大学病院
保健医療圏	宇都宮	真東	真南	真南
区分	地方独立行政法人	公的、地域医療支援	特定機能	特定機能
策定時期	中期計画 H30(2018)・04	H29(2017)・10	H29(2017)・09	H29(2017)・10
病床数	許可	稼働	許可	稼働
計		350	1132	1077
一般		369	1075	1167
療養		368		1125
結核				
精神				
感染症		1	56	42
高度急性期		172	936	1007
急性期		176	139	144
回復期		20		
慢性期				
診療科数		26	46	34
特定の病床数			30	27
(H28病床機能報告より)			24	10
脳卒中ケアユニット(HCU)			24	
新生児特定集中治療室(NICU)		6	12	9
新生児治療回復室(GCU)		6	24	30
小児特定集中治療室(PICU)			8	
総合回復期特定集中治療室(MFICU)			12	10
地域包括ケア病棟				
回復期リハビリテーション病棟	40			
緩和ケア病棟				
医師	10 (H30.05.01)	48	18	
看護職	69 (H30.05.01)	353	721	605 一研修医含む
その他医療専門職	70 (H30.05.01)	124	1404	1144
外来患者数			385	352
入院患者数		延146,626 [人/年] (H28年度)		
一般・療養病床稼働率		延105,958 [人/年] (H28年度)		
救急患者数	90.1% (H28年度)	82.9% (H28年度)	318,718 [人/年] (H28年度)	
手術件数		13.3 (H28年度)	85.8% (H28年度)	
うち全床		8,777 (H28年度)	13.8 (H28年度)	
特徴、政策医療(抜粋)	【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述 ・医療と福祉が一体となった複合施設の特長を活かし、あらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的なリハビリテーション医療を提供するとともに、各分野の関係機関と連携を図りながら、総合的なリハビリテーションを提供する。 ・脳卒中、脳外傷、骨折等による運動障害、高次脳機能障害、失語症等のある回復期の患者に対し、... ・FM(機能的自立度評価表)の点数の低い重症患者を積極的に受け入れ、... ・各分野と連携したリハビリテーションが必要となる脳損傷患者や高次脳機能障害を伴った脳外傷患者等を積極的に受け入れ、... ・VF/VE(嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査)等を活用して、経管栄養や胃導管設置の患者に経口摂取を目指したリハビリテーション医療を提供する。	・高度急性期・急性期医療を中心に ・地域がん診療連携拠点病院の指定・増強する中央手術部において2,000件の手術件数増(9,000件⇒11,000件)・外来治療センターの拡張・高精密放射線治療件数割合の増加 ・救命救急センターと脳卒中センターとの協力を体制をより一層強化し、24時間t-PA治療を迅速に行える体制の確立 ・新館南棟開設により心臓カテーテル装置を1台増設 ・地域連携パスの運用を強化 ・糖尿病診療において、地域連携パスが既に運用 ・急性期診療に重点 ・「認知症疾患診療センター」・「認知症を合併する急性期疾患」診療体制を強化 ・三次救命救急センターとしての機能を強化 ・多発外傷等の高度救急症例の緊急搬送を受け入れ ・DMATを派遣 ・大規模災害時に備えたBCPを平成29(2017)年に策定 ・栃木県のへき地医療をサポート ・医師の派遣要請に引き続き応えつつ	・高度な医療の提供と、医療に関する開発・評価及び研修を行う特定機能病院として地域医療の中核 ・認知症疾患医療センターを開設 ・総合産科母子医療センターを開設 ・救命救急センターを開設し、栃木県ドクターヘリの運搬を開始し、栃木県全域の三次救急医療の一端を担っており	
常勤職員数			8,996 (H28年度)	20前後 (H28年度)
救急車両受入			4,638 [名] (H27年度)	
医療機関の現状と課題				

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

特徴、政策医療(抜粋)	<p>とちぎリハビリテーションセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児や発達障害児等に対し、…相談から診療、療育、教育に至る一貫した総合的なリハビリテーションを提供する。 ・脳性麻痺、小児運動器疾患等の障害児・障害者に対し、整形外科手術を実施する。 ・介護保険制度の適用外となる脳性麻痺、脳外傷、脊髄損傷、上肢・下肢の切断等の患者に対し、…継続的に外来リハビリテーション医療を提供する。 	<p>芳賀赤十字病院</p>	<p>自治医科大学附属病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合周産期母子医療センター…現在の機能を維持 ・とちぎ子ども医療センター…現在の機能を維持 	<p>獨協医科大学病院</p>
紹介率 逆紹介率 その他地域との連携に関する項目	<p>48.9% (H28年度)</p> <p>【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院との連携を強化し、回復期リハビリテーション医療の対象となる患者を受け入れる。 …地域医療連携室を設置し、…入院や在宅復帰に向けた連絡調整を強化する。 	<p>78.2% (H28年度) 67.2% (H28年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の医療機器共同利用取扱件数は、…424件と増加 ・従来のソーシヤルワーカーによる退院支援に加えて、…新たに看護師による退院支援相談を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者サポートセンターを設置 ・地域臨床教育センターを設置…医学部学生に対する卒前教育や若手医師に対する卒後教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定機能病院として高度先端医療の提供と、地域社会の中核となる医療センターであるとの自負
課題		<p>引き続き必要な高度急性期・急性期医療を提供することで救急医療体制を維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション病棟を活用…救急からの入院や紹介を通じた患者の受入を促進 ・地域完結型のがん治療の充実 ・地域完結型のがん治療の推進 	<p>本区域で担っている高度急性期・急性期病床機能の維持及び強化…本区域だけでなく栃木県全体の増加する医療需要の受け皿となることを目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5疾病5事業の中では、特にがん、脳卒中、心筋梗塞、救急医療に重点を置いて診療機能を強化 ・本区域内での機能分業を推進 ・「医師の働き方改革」について取り組みを強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期を脱した回復期あるいは慢性期患者の受け皿が他の都道府県と比較して少ない傾向…特定機能病院としての機能を維持すると共に、後方支援病院の確保・整備を強化して急性期医療を必要とするひとりでも多くの患者が適切に高度な医療が受けられるよう連携医療ネットワークの強化・地域包括ケアシステムの構築を目指したい

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

<p>病院名 今後の方針</p>	<p>今後地域において担うべき役割</p>	<p>とちぎリハビリテーションセンター 【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述 ・ボツリクス療法等の新たな療法・ロボティクス等、先進的なリハビリテーション医療技術の導入について継続的に研究 ・リハセンターが有するノウハウ及び医療現場のニーズを県内のヘルスケア産業等に情報提供するなど、新たな医療機器の製品開発に貢献する</p>	<p>芳賀赤十字病院 ・県東地域医療構想区域における中核病院として、急性期医療、救急医療を充実 ・回復期機能を充実</p>	<p>自治医科大学附属病院 ・栃木県における高度急性期医療のリーダーとして ・高度急性期・急性期医療を中心とした医療提供体制を整備し、5疾病の事業の政策医療を含めた栃木県全体の医療に貢献できるよう ・地域におけるプライマリケア(一次救急、在宅)での看取り、地域包括ケアシステムなど)について可能な限りの支援</p>	<p>獨協医科大学病院 ・高度急性期および急性期を中心に、現在県内外の患者に果たしている機能の維持・強化 ・高度急性期及び急性期を中心に円滑に運営するために、回復期、慢性期の病床機能を増強 ・在宅医療を担う病院等との連携強化</p>
<p>今後持つべき病床機能</p>	<p>【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述 ・回復期リハビリテーション病床を増床(40床)するとともに、回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準に適合する体制整備を目指す...</p>	<p>・平成30年度竣工予定の新病院においては救急病棟を整備し、救急医療体制の充実を図り、地域に必要な高度急性期・急性期機能を確保するとともに、回復期リハビリテーション病棟を拡充し、回復期機能の充実を図る</p>	<p>・脳卒中センターの設置も予定 ・今後も県内外の患者に、現在担っている社会的使命を果たしていく必要があり、現在の急性期病床機能を引き続き維持</p>	<p>・回復期リハビリテーション病棟を活用し、空床に救急や紹介を通じた急性期患者の受入を進めることで病床利用率の向上と平均在院日数の短縮を図り、地域の医療機関からもリハビリテーション患者の受入数増加に努める</p>	<p>・変化する医療需要に対応できる経営体質を構築</p>
<p>その他見直すべき点</p>	<p>【その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置】の記述 ・医療機器について、計画的な更新・整備に努める。</p>	<p>・平成30年度完成予定の新病院において、救急病棟を整備 ・回復期リハビリテーション病棟を強化 ・地域の医療需要の変化に対応するべく、医療機能の強化を図る</p>	<p>・回復期リハビリテーション病棟を強化 ・地域の医療需要の変化に対応するべく、医療機能の強化を図る</p>	<p>・回復期リハビリテーション病棟を強化 ・地域の医療需要の変化に対応するべく、医療機能の強化を図る</p>	<p>・回復期リハビリテーション病棟を強化 ・地域の医療需要の変化に対応するべく、医療機能の強化を図る</p>
<p>具体的な計画</p>	<p>4機能ごとの病床のあり方</p>				

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

機能ごとの病床数 合計	とちぎリハビリテーションセンター		芳賀赤十字病院		自治医科大学附属病院		獨協医科大学病院	
	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度
高度急性期	349	360	1075	1075	1151	1151	1151	1151
急性期	172	47	936	936	1007	1007	1007	1007
回復期	157	273	139	139	144	144	144	144
慢性期	20	40						
診療科の見直し								
病床稼働率		90.0% (2025年度)						91.0% → 2025年度で良いか
手術室稼働率		90.0% (2025年度)						77.5% → 2025年度で良いか
紹介率		90.0% (2025年度)						79.9% → 2025年度で良いか
逆紹介率		90.0% (2025年度)						61.9% → 2025年度で良いか
その他実績								
リハビリテーション実施単位数 303,000[件/年](H34年度)								
発達障害外来受診者数 7,400[人/年](H34年度)								
整形外科手術の実施人数 45[人/年](H34年度)								
人件費率		55.0% (2025年度)						
経営に関する項目、その他								
経常収支比率 100%以上 (H34年度)								
医療収支比率 75%以上 (H34年度)								
地域医療介護総合確保基金の活用について								
医療収益に占める人事育成にかける費用の割合 0.4%								
医療収益に占める人事育成にかける費用の割合 0.06%								
医療収益に占める人事育成にかける費用の割合 38.8% → 2025年度で良いか								

・新病院建設…平成30年12月『竣工』、平成31年春『開院』を予定
 ・【新病院の特徴】…「1階フロア外来」…「2階フロア3看護単位の入院病棟」…救急医療の充実、災害拠点病院
 ・自治医科大学芳賀地域臨床教育センター

その他

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名	新小山市民病院	とちぎメディカルセンターしもつが	定利赤十字病院	佐野厚生総合病院
保健医療圏	県南	県南	阿毛	阿毛
区分	地方独立行政法人、地域医療支援	地域医療支援	公的、地域医療支援	公的、地域医療支援
策定期	中期計画 H29(2017).03	H29(2017).10	H29(2017).10	H29(2017).10
病床数	許可	稼働	許可	稼働
計		307	555	523
一般		301	500	368
療養				100
結核				
精神				
感染症				
高度急性期				
急性期				
回復期				
慢性期				
一般および療養病床のうち機能別の病床		6	37	4
			413	
			50	
診療科数		26	28	19
特定の病床数			30	
(H28病床機能報告より)				
救急救急集中治療室(ICU)				
ハイケアユニット(HCU)	12			
脳卒中ケアユニット(SCU)	3			
新生児特定集中治療室(NICU)				
新生児治療回復室(GCU)				
小児特定集中治療室(PICU)				
総合周産期特定集中治療室(MFICU)				
地域包括ケア病棟	44			
回復期リハビリテーション病棟				
緩和ケア病棟				
医師	49 (H27年度)	46	50	50
看護師	257 (H27年度)	207	19	77
その他医療専門職		106	208	372 ← 准看護師含む
外来患者数	154,837 [人/年] (H27年度)			
入院患者数	89,010 [人/年] (H27年度)			
一般・播種病床稼働率	73.3% (H27年度)			
一般病床平均在院日数[日]	11.8 (H27年度)			
救急患者数	7,217 [人/年] (H27年度)			
手術件数				
うち全麻				
特徴、政策医療(抜粋)	<p>【目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を担う中核病院として、診療部門相互の連携のもとで総合的な医療を提供…入院や手術を中心とした急性期医療を安定して提供 ・24時間365日断らない救急医療を目指す ・栃木県がん治療中核病院として…放射線治療に伴うハード整備の検討 ・脳卒中ケアユニット(SCU)を有する脳卒中センターの充実 ・循環器センターの整備 ・糖尿病の予防や糖尿病合併症治療などの糖尿病専門治療の充実を図る ・地域のニーズに応えられる小児医療体制の充実と、小児救急二次輸送病院としての機能を確保…小児救急のレベルアップ ・早期に地域周産期医療機関の再開を目指す ・市及び関係機関との連携を密にして、災害発生時に迅速な対応 	<p>延192,777 [人/年] (H28年度)</p> <p>95.2% (H28年度)</p> <p>14.3 (H28年度)</p> <p>救急車受入4,254 [人/年] (H28年度)</p> <p>3,698 [件/年] (H28年度)</p>	<p>高度急性期、急性期、回復期、慢性期、精神科を備えたケアミックス型の総合病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次救急指定病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院…地域に根ざした高度な医療提供 	

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

特徴、政策医療(抜粋)	新小山市民病院	とちぎメディカルセンターしもつが ・地域包括ケアの科別割合 入院患者数の割合は、整形外科32.6%、呼吸器アレルギー19.7%、外科12.3%、呼吸器科11.1%、循環器科10.8%	足利赤十字病院	佐野厚生総合病院
紹介率 逆紹介率 その他地域との連携に関する項目	76.6% (H27年度) 83.5% (H27年度) 【目標を達成するため取るべき措置】の記述 ・地域医療支援病院として、前方連携となる診療所等医療機関(かかりつけ医)と連携し、かつ後方連携となる機能の異なる近隣病院等と連携の充実を図り ・住まい、医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供できるよう地域の医療・介護関係機関と連携 ・認知症疾患医療センターの開設及び訪問看護体制の整備を図る	56.8% (H29.8)	77.8% (H28年度) 73.5% (H28年度)	65.0% (2016年度)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医師確保が最大の課題・過度な大学病院への依存を解消すべく、特に内科系医師の常勤化(医師確保)を図りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域診療所からの紹介を始め、法人内の急性期機能の集約により、紹介・逆紹介は活発な経過 	<ul style="list-style-type: none"> ・開業医からの緊急紹介を断らず迅速に受け入れ・地域連携室が連絡を受けて即返答できるワンストップ受け入れ体制を開始・積極的な逆紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携登録医アンケータート…小児科の夜間救急には大要助がっている…救急については今後、今の状態が続いて欲しい…診療科の充実…入院要請の受け入れ…後方ベッドの確保…急性期医療の役割は今後ますます重要となるので協力

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名 今後の方針	新小山市民病院	とちぎメディカルセンターしもつが ・既に稼働・展開している急性期医療の機能拡大 ・がん・脳卒中・急性心筋梗塞の治療体制の確立	足利赤十字病院 ・高度急性期及び急性期を中心として、両毛地域の救急医療、周産期医療、小児医療を支えていく ・今後地域医療機関や高齢者施設と連携を更に深め、地域完結型医療をより強固にする ・災害拠点病院として有事の際は両毛区域の医療を支えていく ・事業継続計画(BCP)を成熟させ、職員への教育と訓練	佐野厚生総合病院 ・急性期・中核病院としての機能を発揮 ・地域医療を支えるかかりつけ医や慢性期の入院医療機関との連携体制のもとに機能分化を図る ・区域の現状、地域の声を取り入れ地域医療構想の実現に貢献 ・将来の患者推計に沿った診療科の充実、紹介患者の受け入れ拡大、5疾病の診療体制の充実、5事業に対しては特に救急医療の充実や災害対策の立ち上げ
今後持つべき病床機能		とちぎメディカルセンターとちのき 既に確定している回復期・慢性期医療の機能拡大	現在の機能を維持し続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・当院では病床数は減らさずに、必要に応じた機能転換 ・【回復期機能の充実】・リハビリテーションの機能を活かし回復期の充実・強化・地域包括ケア病床導入も今後の検討課題・退院調整部門を強化
その他見直すべき点			医療需要の推移を把握しながら対応	<ul style="list-style-type: none"> ・【診療科の充実】・医療需要と当院の実績から今後の診療科を検討・消化器疾患と呼吸器疾患に関しては実績を有している・脳血管疾患と循環器疾患については十分とは言えず・内分泌疾患、腎・泌尿器疾患においては・人員確保ができていない・さらに医療の専門化・細分化に伴うセンター化構想の実現、研修センターを設立し多種多様なスタッフの専門性を生かしたチーム医療の向上を目指す ・【救急医療・災害対策】・特に救急医療の充実と災害対策の立ち上げが必要・災害拠点病院取得を視野 ・【がん診療の拡充】・院内外連携の上、この区域でがん診療の中心的役割を担って・早期がんの低侵襲性治療として内視鏡治療のセンター化、手術・化学療法の実施・緩和ケアチーム・緩和ケア病棟新設も念頭に
具体的な計画	4機能ごとの病床のあり方		<ul style="list-style-type: none"> ・4機能ごとの病床については、維持 ・4機能ごとの病床あり方については、院内協議の上、柔軟に対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年を目途に慢性期病床は地域の現状に合わせた機能転換 ・2035年までは現在の病床数を維持しつつ高度急性期・急性期・回復期を拡充 ・2040年頃より、需要に合わせた病床の削減を行う必要

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

機能ごとの病床数	新小山市民病院		とちぎメディカルセンターしもつが		足利赤十字病院		佐野厚生総合病院	
	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	2017年	2025年
合計	307	307	307	307	500	500	472	472
高度急性期					37	37	4	4
急性期	263	263	263	263	413	413	368	368
回復期	44	44	44	44	50	50	50	50
慢性期								
診療科の見直し								
	*現時点では見直しは不要							
具体的な数値目標	病床稼働率	90.0% (H32(2020)年度)	90.0% (H32年度)					87% (2025年)
	手術室稼働率	80.0% (H32(2020)年度)						
	紹介率	75.0% (H32(2020)年度)	65% → H32年度で良いか					65% (2025年)
その他実績	救急外来患者数	7,500(人/年) (H32年度)						救急車件数 4,000件
	うち救急車搬送患者数	3,750人						手術件数 3,000件
	うち救急入院患者数	2,650人						平均在院日数 一般13 回復30 精神65
	人件費率	59.7% (H32(2020)年度)						
経営に関する項目、その他	入院診療単価	56,040[円] (H32年)						入院単価 50,000[円] (2025年)
	外来診療単価	12,100[円] (H32年)						外来単価 15,000[円] (2025年)
	経常収支比率	103.1% (H32年)						
	医療収支比率	97.0% (H32年)						
地域医療介護総合確保基金の活用について								
その他		・小山市地域医療推進基本計画の新小山市民病院に課せられた数多くの各種施策の達成を目標に努力						
								・今後、地域医療構想を議論していくなかで当院がリーダーシップを発揮し、地域の医療機関と連携し、団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けて、両毛地域の医療体制を整備していく所存

平成29年度 各医療機関の機能別報告病床数（両毛医療圏）

施設名称	2017年						2023年（6年後）						
	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	介護移行
172. 本庄記念病院	92	0	54	0	38	0	92	0	54	0	38	0	0
173. 足利中央病院	83	0	38	0	45	0	83	0	38	0	45	0	0
174. 足利赤十字病院	500	37	413	50	0	0	500	37	413	50	0	0	0
175. 佐野中央病院	72	0	0	0	0	72	72	0	0	0	0	72	0
176. 足利第一病院	57	0	57	0	0	0	57	0	57	0	0	0	0
177. 皆川病院	72	0	32	0	40	0	72	0	0	32	40	0	0
178. 今井病院	223	0	86	0	137	0	223	0	86	0	137	0	0
179. 佐野医師会病院	119	0	60	0	34	25	119	0	60	0	34	25	0
180. 長崎病院	80	0	34	0	46	0	80	0	34	0	46	0	0
181. 佐野厚生総合病院	476	4	372	50	50	0	476	4	372	100	0	0	0
182. 佐野市民病院	258	0	60	50	94	54	258	0	70	50	94	44	0
183. 鈴木病院	56	0	0	0	56	0	56	0	0	0	56	0	0
184. あしかがの森足利病院	240	0	0	0	214	26	240	0	0	0	240	0	0
185. 田村レディースクリニック	14	0	14	0	0	0	14	0	0	0	0	14	0
186. かしま産婦人科	19	0	19	0	0	0	19	0	19	0	0	0	0
187. 鹿島整形外科	19	0	19	0	0	0	19	0	19	0	0	0	0
188. 栃木産科婦人科医院	14	0	14	0	0	0	14	0	14	0	0	0	0
189. 鹿島眼科	3	0	3	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0
190. 匠レディースクリニック	14	0	14	0	0	0	14	0	14	0	0	0	0
191. 佐野利根川橋クリニック	19	0	0	0	19	0	19	0	0	0	19	0	0
192. みなみ眼科	6	0	6	0	0	0	6	0	6	0	0	0	0
193. 浅岡産婦人科医院	13	0	13	0	0	0	13	0	13	0	0	0	0
194. 柏瀬眼科	6	0	6	0	0	0	6	0	6	0	0	0	0
195. 大岡胃腸内科	19	0	0	0	0	19	19	0	0	0	0	19	0
196. 両毛クリニック	19	0	0	19	0	0	19	0	0	19	0	0	0
197. 伏島クリニック	12	0	12	0	0	0	12	0	0	0	0	12	0
198. 岡産婦人科医院	8	0	8	0	0	0	8	0	8	0	0	0	0
両毛計	2,513	41	1,334	169	773	196	2,513	41	1,286	251	749	186	0

2017年-2025年	601	▲ 165	701	▲ 405	274	-
-------------	-----	-------	-----	-------	-----	---

管内病院の動向

I 本庄記念病院

足利市堀込町

○救急告示病院

○内科 小児科 外科 乳腺外科 整形外科 皮膚科 肛門外科 リハビリテーション科 婦人科
消化器内科 消化器外科 循環器内科 アレルギー科 リウマチ科

1 平成30年7月1日現在の状況

H30.7.1の状況			病床機能報告(2018)	
一 般		54 床	急性期	54 床
	地域一般入院基本料2	44 床		
	地域包括ケア病棟入院料2	10 床		
療 養		38 床	慢性期	38 床
	療養病棟入院基本料2	38 床		
合 計		92 床	合 計	92 床

2 検討している内容等

新たに配分を受けた16床と既存の病床92床、合計108床を再編、平成30年10月1日に新病棟をオープンした。今後、現在10床の地域包括ケア病床を拡充(病床数は未定、最大で25床程度)することを検討しており、回復期を増加させる予定。

3 変更後の病床

変更後の病床(案)			病床機能報告(2019以降の案)	
一 般		未定	急性期	未定
	地域一般入院基本料2	未定		
	地域包括ケア病棟入院料2	拡充	回復期	拡充
療 養		未定	慢性期	未定
	療養病棟入院基本料2	未定		
合 計		108 床	合 計	108 床

4 変更時期 平成31年以降 検討中

5 病床機能報告における病床数の増減見込み

急性期	回復期	慢性期
未定	増	未定

Ⅱ 皆川病院

足利市多田木町

○救急告示病院

○足利市佐野市の間地点に位置し、両市からの救急搬送を受け入れている。

○内科 消化器内科 糖尿病内科 内分泌内科 外科 消化器外科 乳腺外科 肛門外科
整形外科 泌尿器科

1 平成30年3月31日現在の状況

H30.3.31の状況		病床機能報告(2017)	
一般	32床	急性期	32床
一般入院基本料(13:1)	32床		
療養	40床	慢性期	40床
療養入院基本料2	40床		
合計	72床	合計	72床

2 平成30年7月1日現在の状況

H30.7.1の状況		病床機能報告(2018)	
一般	44	急性期	18床
地域一般入院基本料1	18	回復期	26床
地域包括ケア病棟入院料2	26		
療養	28	慢性期	28床
療養病棟入院基本料2	28		
合計	72床	合計	72床

3 変更した内容

平成30年7月、一般病床、療養病床を再編して、そのうち26床を地域包括ケア病棟入院料を算定する病床として整備した。その分については、平成30年の病床機能報告から回復期病床として報告済み。

4 変更時期 平成30年7月

5 病床機能報告における病床数の増減

急性期	回復期	慢性期
14床の減	26床の増	12床の減



Ⅲ 今井病院

足利市田中町

○救急告示病院

○内科 呼吸器内科 消化器内科 血管内科 糖尿病内科 神経内科 外科 呼吸器外科
消化器外科 乳腺外科 整形外科 形成外科 アレルギー科 リウマチ科 皮膚科
リハビリテーション科 放射線科 歯科口腔外科 こう門科 麻酔科

1 平成30年7月1日現在の状況

H30.7.1の状況			病床機能報告(2018)	
一般		86 床	急性期	86 床
	急性期一般入院基本料4	86 床		
療養		137 床	慢性期	137 床
	療養病棟入院基本料1	100 床		
	療養病棟入院基本料2	37 床		
合計		223 床	合計	223 床

2 検討している内容

(1) 療養病床137床のうち、37床を介護医療院に転換する予定。これにより、療養病棟は100床となる。平成30年度中の転換を目指している。

(2) 併せて一般病床のうち、12床を地域包括ケア病棟入院料を算定する病床として整備することとしている。回復期として報告予定。

3 変更後の病床

変更後の病床(案)			病床機能報告(2019以降の案)	
一般		86	急性期	74 床
	急性期一般入院基本料4	74		
	地域包括ケア病棟入院料	12		
療養		100	慢性期	100 床
	療養病棟入院基本料1	100		
合計		186床	合計	186 床
			介護医療院	37 床

4 変更時期 平成30年度末以降

5 病床機能報告における病床数の増減見込み

急性期	回復期	慢性期	介護医療院
12床の減	12床の増	37床の減	37床の増

IV 佐野医師会病院

佐野市植上町

○内科 外科 整形外科 皮膚科 眼科 放射線科 麻酔科

1 平成30年7月1日現在の状況

H30.7.1の状況		病床機能報告(2018)	
一般	60床	急性期	60床
急性期一般入院基本料5	60床		
療養	34床	慢性期	34床
療養病棟入院基本料2	34床		
休床	25床	休床	25床
合計	119床	合計	119床

2 検討している内容等

休床している25床については、回復期病床としての整備を検討中。

3 変更後の病床

変更後の病床(案)		病床機能報告(2019以降の案)	
一般	85	急性期	60床
急性期一般入院基本料5	60		
(検討中)	25		
療養	34	慢性期	34床
療養病棟入院基本料2	34		
合計	119床	合計	119床

4 変更時期 平成31年度以降 検討中

5 病床機能報告における病床数の増減見込み

急性期	回復期	慢性期	休床
増減なし	25床の増	増減なし	25床の減



V 佐野市民病院

佐野市田沼町

○開設者：(一財)佐野メディカルセンター(H30.4.1～) 救急告示病院

○内科 呼吸器内科 循環器内科 消化器内科 外科 消化器外科 乳腺外科 整形外科
脳神経外科 小児科 皮膚科 泌尿器科 婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科
放射線科 血管外科

1 平成30年3月31日現在の状況(旧:佐野市民病院のデータ)

H30.3.31の状況			病床機能報告(2017)	
一 般		110 床	急性期	60 床
	一般入院基本料(7:1)	60 床		
	地域包括ケア1	50 床	回復期	50 床
療 養		94 床	慢性期	94 床
	療養入院基本料1	43 床		
	療養入院基本料2	51 床		
休 床		54 床	休 床	54 床
合 計		258 床	合 計	258 床

2 平成30年7月1日現在の状況

H30.7.1の状況			病床機能報告(2018)	
一 般		108 床	急性期	58 床
	急性期一般入院基本料1	58 床		
	地域包括ケア病棟入院料2	50 床	回復期	50 床
療 養		58 床	慢性期	58 床
	療養病棟入院基本料1	58 床		
休 床		92 床	休 床	92 床
合 計		258 床	合 計	258 床

3 今後の予定

新しい病棟建替計画に合わせて、病床機能等も検討していくものとしている。
(H30.12現在)

4 変更時期 未定 検討中

5 病床機能報告における病床数の増減

急性期	回復期	慢性期	休床
未定	未定	未定	未定